



3月1日～7日は子ども予防接種週間

子どもの予防接種を忘れずに

■問い合わせ 子ども未来課Tel 23-3222

免疫をつくる助けとなる予防接種

お母さんが赤ちゃんにプレゼントした“病気に対する抵抗力”(免疫)は、百日ぜきで生後3カ月までに、麻しん(はしか)では生後12カ月までに自然に失われていきます。そのため、この時期を過ぎると、さまざまな感染症にかかりやすく、なかには深刻な合併症や後遺症をおこしたり、命を落としたりする危険もあり、赤ちゃん自身で免疫をつくって病気を予防する必要があります。その助けとなるのが予防接種です。

接種前の準備

- 当日は、お子さんの状態をよく観察し、普段と変わったところがないことを確認しましょう。
- 予防接種ガイドを読み、必要性や副反応などを理解しましょう。
- 接種にはお子さんの母子健康手帳が必要です。前回からの接種間隔を確認したり、重複接種を防いだりと、安全に実施する上で大変重要な情報が記載されています。
- 予診票がないと予防接種はできません。予診票を紛失した場合は、子ども未来課までご相談ください。

接種後に注意すること

- 接種後30分は反応が出やすいので特に注意が必要です。
- 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。
- 接種後は普段どおりの生活でよいです。ただし、興奮させたり、激しい運動をさせたりすることは避けましょう。
- お風呂は差し支えありませんが、注射した部位をこすることは控えましょう。
- 接種後に発熱や下痢などが起きても、それがワクチンによるものかはわかりません。受診するかどうかわからない場合は、かかりつけ医、または子ども未来課までご相談ください。

ワクチンで防げる病気は、ワクチンで防ぎ、大切なお子さんの健康と命を守りましょう。



受ける年齢(月齢)と種類

予防接種は、ワクチンを安全に接種できて、高い効果が得られる年齢が決められています。

定期接種の種類	対象者・期間
ヒブ・小児用肺炎球菌	生後2カ月～5歳未満
B型肝炎	生後2カ月～1歳未満
四種混合(ジフテリア・破傷風・百日ぜき・ポリオ)	生後3カ月～7歳6カ月未満
BCG	生後5カ月～1歳未満
麻しん風しん混合(1期・2期)	1期: 生後1歳～2歳未満 2期: 保育所・幼稚園等の年長児
水痘(みずぼうそう)	生後1歳～3歳未満
日本脳炎	1期: 生後6カ月～7歳6カ月未満 2期: 9歳以上13歳未満
二種混合(ジフテリア・破傷風)	11歳以上13歳未満
子宮頸がん予防(HPV)	小学6年生～高校1年生の女子 ※現在、積極的な勧奨を行っていません

接種方法

市内の協力医療機関で実施します(BCGのみ集団接種)。希望する医療機関にあらかじめ予約をして、お出かけください。接種費用はすべて無料です。

おたふくかぜ予防接種(任意接種)

市では1歳以上就学前のお子さんを対象に接種費用の一回分を無料で実施しています。詳しくはホームページをご覧ください。子ども未来課までお問い合わせください。